

## 令和5年度 第1回 吹田市自殺対策推進庁内会議 計画策定・推進作業部会

(令和5年6月1日開催)

## ●令和4年度 吹田市の自殺の状況の報告と各室課の取組についての意見交換

<p>相談対応</p>	<p>《現状の取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「自殺未遂者支援事業」として自殺未遂者へのアウトリーチ支援を展開している。相談件数は10～20代の若年層の相談が近年増加傾向となっており、未遂者支援事業は令和2年から4年で倍増している。(地域保健課)</li> <li>○学校が子どもたちの変化をいち早くキャッチする場でもあると教職員も認識しているので、子どもたちに変化があった場合には、面談や声かけ等を行い、悩み事等を聞き取っている。(学校教育室)</li> <li>○子ども・若者ための相談が重要である。吹田市子ども・若者総合相談センター「ぷらっとるーむ吹田」で青少年相談を実施している。(青少年室)</li> </ul> <p>《取組における課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○しんどい思いを吐き出してもらう窓口として、女性のための相談、男性のための電話相談を実施している。無言電話になる状況も多いが、継続して様子を見ていく必要がある。(男女共同参画センター)</li> <li>○相談に来る人の中には、何に困っているのか分からない状態になっているケースも多々ある。話を聞く中で寄り添いながら、一つずつ解決に導く必要がある。まず相談窓口を知ってもらうことが一番大切だと思う。(子育て給付課)</li> </ul>
<p>ネットワークの強化</p>	<p>《現状の取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○庁内庁外に渡るネットワークの構築を目的として各種会議を開催。市内の5大学との大学連絡会議を継続開催。5年度以降は公立・私立の高校8校との連絡会議の開催に向けて調整している。(地域保健課)</li> </ul> <p>《取組における課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍により各種教室などの参加も減少し、今までのコミュニティが壊れてしまったところもあるので、これからまた再構築していかないといけない。(文化スポーツ推進室)</li> <li>○個々の虐待やDV案件に関しては関係機関とケース会議を開いており、例えば虐待で死亡まで至れば検証まで行いが、自殺に至ってしまったことに反省をすることはあっても、なぜ助けられなかったのかという関係機関で第三者を踏まえて検証に至ることはあまりない。(母子保健課)</li> </ul>
<p>市民への啓発</p>	<p>《現状の取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームページ上でのこころの体温計の運用、オンラインでの市民講演会を開催している。(地域保健課)</li> <li>○ハラスメントのセミナー実施や防止対策に関するホームページでの周知、直接的ではないが、間接的などところでの支援が非常に多い。(地域経済振興室)</li> </ul> <p>《取組における課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活に困った方が相談に来ているので、パンフレットやリーフレットを配架し、目に触れて持って帰ってもらうことで、少しでも自殺対策につなげられればと思う。(市民総務室)</li> <li>○自殺企図等も10～20代が増えており、小・中学校の救急講習時に「命の大切さ」を伝え、自殺防止について指導する必要があると考える。(総務予防室)</li> </ul>

<p>人材育成</p>	<p>《現状の取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市内の教職員向けのゲートキーパー研修を実施している。令和5年は、9月に市の窓口職員を対象にゲートキーパー研修を実施し、全庁的な対応力の向上を図る。（地域保健課、人事室）</li> <li>○災害関連死を防ぐ体制づくりが重要である。内閣府と連携したモデル事業として「避難生活支援リーダーサポーター研修」を実施し、災害時の避難生活の改善の取組を進めている。（危機管理室）</li> <li>○身近な人に声かけをしてしっかりとつないでいくため、“気付く人を増やしていく”ことをコンセプトとしてこころサポーター養成事業を実施している。（障がい福祉室）</li> <li>○教職員向けのゲートキーパー研修を実施している。（教育センター）</li> </ul> <p>《取組における課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自殺する前に、誰かに相談できる体制が大事だと思うので、まずは市民に啓発、たくさんの方にゲートキーパーになっていただけるような取組を今後も継続していかないといけないと思う。（青少年室）</li> </ul>
<p>自己肯定感を高める取組</p>	<p>《現状の取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「吹田市パートナーシップ宣誓証明制度」にて市営住宅への入居や市民病院での手術同意が可能となった。今後も広がりを進め、LGBTQの方の助けになることを実施していく。（人権政策室）</li> <li>○ひきこもりの方を対象にキャンプで交流する事業を定期的実施している。中学を卒業したら、今度はリーダーとして来てもらうなど、ステップアップできるような形での運営に取り組んでいる。（青少年室）</li> <li>○学校では学習指導要領に沿って授業を行っており、子ども達が主体的に授業を作り上げていくような形を取っている。また、自己肯定感を上げていく取組や研修等も行っている。（学校教育室）</li> </ul> <p>《取組における課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自殺リスクのある妊産婦の背景には、自己肯定感の低さがあり、虐待やいじめ、生育過程における傷付き体験を持っている方が多い。生きづらさを抱えながら大人になって、家庭を築いている。若いうちから自己肯定感を高めるために、生きる希望や生きがいを持てるような支援が広がっていくよう、スキルを磨きながら、関係室課と協力して進めていきたい。（母子保健課）</li> <li>○若い方に適正な健康づくり、運動などで人とのつながりを強めていくことの重要性について啓発を進めることで、長い目でみると自殺対策につながっていくと考える。（成人保健課）</li> </ul>
<p>その他の取組</p>	<p>《現状の取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者の幸福感と主観的健康感には相関がみられることから、健康づくり・介護予防事業を推進している。（高齢福祉室）</li> </ul> <p>《取組における課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ヤングケアラー家庭へのヘルパー支援の実績は少ないが、活用することで進学や通学できるようになることは、将来にわたって人生に大きく左右することになると思う。（家庭児童相談室）</li> <li>○自殺の要因の一つとして経済的な困窮はウェイトの高い問題だと思うので、困窮対策を粛々と実施していくことで自殺対策につながっていくと認識している。（生活福祉室）</li> </ul>

